

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方針
<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児一人ひとりが大切にされ、のびのびと楽しく学べる安全な幼稚園 ○ 思いやりのある やさしい子ども ○ よく考える かしい子ども ○ 元気で たくましい子ども ○ 心身共に健康で、一人一人の子どもを大切に、常に学び続ける教師 		0	0
		0	0
		0	0
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
保護者や地域との共育を推進し、保育内容の充実を図る。	○地域や保護者・ボランティアと連携し、園児が多様な体験ができる取組を学期に2回実施する。(成果指標)	<ul style="list-style-type: none"> ○各学期2回、地域や保護者・ボランティア等との交流を実施し、保育の向上を図ることができた。 ○地域の老人施設と保育園との交流を4回実施し、違いを認め・尊重する態度が、発言や行動に見ることができるようになった。 ○信頼と満足度に関する質問において、肯定的回答が90%以上であった。 ○各交流において、相手に対して正しく挨拶したり、工夫しながら活動する園児が増えてきた。 	
	○地域の諸施設との4回の交流を通して、違いを認め・尊重する態度を育成する。(取組指標)		
	○PTAと教職員の連携を深め、員の高い保育と行事を行うことで園への信頼と満足感を高める。アンケート満足度90%(成果指標)		
言葉を大切にせる教育を推進する。	○挨拶や人とつながる言葉の研究保育と協議会を年1回実施する。(取組指標)	<ul style="list-style-type: none"> ○研究保育と協議会を行い、発達段階に応じた指導の工夫や手立ての共通理解・実践に取り組めた。 ○年長組のめざす姿を明確にし、全職員で指導したことで、挨拶や話の聞き方など定着してきている。 ○時と場に応じた言葉遣いについては、継続的な取組が必要である。 ○週に3回、みんなに話す場を設定することで、話すことへの意欲が高まった。内容面では個人差が大きい引き続き経験を積ませていく。 ○園児の図書利用率は100%であった。保護者の図書利用率は向上しているが、100%には至っていない。 	
	○挨拶や言葉の指導において、学年の目標と内容を共通理解し、学期ごとに評価を行い、園児への定着を図る。(取組指標)		
	○自分の言葉で話したり、取後まで聞いたりできるように、斉保育や朝・帰りの集まりの時間に場(週に3回)を設ける。(取組指標)		
幼小・幼幼・幼保の連携を推進し、小一プロブレムを解消する。	○園児自身が良さを感じられる交流会を年に4回行う。(取組指標)	<ul style="list-style-type: none"> ○交流の目的を共通理解し事前・事後の打合せを確実に行った結果、回を重ねるごとに実りの多い交流ができた。 ○保幼小連絡会時の授業参観や校内研究推進事業等の授業公開、金武小の人権学習参観などに参加し、報告し合ったことで、授業内容だけでなく、多方面から小学校の実情を知る機会となった。 ○他園との交流や園外の研修会に参加して学んだことが、新たな取組として提案されたり、保育内容の見直しに繋がる提案になったりと、成果として見られた。 ○小学校と合同で訓練を実施したことで、担当者の視野が広がり、園での安全への取組にも効果があった。 	
	○全職員が年に2回以上、小学校の授業を参観し、報告会を行うことで学びを広げる。(成果指標)		
	○研修会等に年2回以上参加し、学んだことを保育や環境づくりに活かすと共に、閉園後に向けた準備を積極的にを行う。(取組指標)		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
<ul style="list-style-type: none"> ○子ども主体で、社会の要請にも対応した新しいことに取組まれていた。公立幼稚園の良さを活かした保育であった。 ○小学校教育を見越した取組や他園との交流、一人一人への指導が適切に行われていた。 ○本年度は、最後の年度ということもあり、地域との交流も多く、子ども達に、地域・保護者の力を活用した体験活動を経験させることができていた。 ○挨拶や言葉を大切にせる教育がなされていることが子どもの姿からも伝わってきた。 ○子どものためになる研修や来年度の小学校異動に役立つ研修が計画的に行われていた。 			